

**「（仮称）次期桐生市総合計画」における
重点施策（総合戦略）に対する意見書（案）**

桐生市総合戦略推進委員会

桐生市まち・ひと・しごと創生総合戦略 施策の体系図

基本目標 1

地域の資源を活用した魅力ある雇用を創出する

施策の方向性	具体的施策
(1)しごと環境の創出	①新たな雇用やしごと形態の創出
	②創業促進・支援
(2)地場産業等の活性化	①地場産業等の活性化
(3)農林業の振興と成長産業化に向けた取組	①農産物等の有効活用と担い手の確保
	②森林資源の活用による林業の活性化と水源の活用

基本目標 2

人口の市外流出に歯止めをかけ、移住・定住を促進するとともに、交流人口の拡大による地域の活性化を目指す

施策の方向性	具体的施策
(1)移住・定住の促進	①移住・定住情報の提供及び空き家等の活用
	②移住・定住者への支援
(2)地域の資源を活用した観光振興	①地域の資源の有効活用
	②観光拠点整備と効果的な情報発信

基本目標 3

安心して結婚・妊娠・出産・子育てができるよう、若い世代の希望をかなえる

施策の方向性	具体的施策
(1)結婚・妊娠・出産・子育ての支援	①結婚・妊娠・出産のための支援
	②子育て世代の負担軽減
(2)安心して子育てができる環境整備	①安心して子育てができる環境整備
(3)特色ある教育の充実	①特色ある教育の充実

基本目標 4

広域的な視点かつ将来を見据えた、地域の特徴に応じたまちづくり

施策の方向性	具体的施策
(1)安全・安心で住みやすい環境づくり	①地域防災体制の整備
	②保健・医療・介護体制やサービスの充実
(2)将来を見据えた計画的なまちづくり	①環境先進都市実現に向けた取組
	②計画的な地域づくりの推進
(3)地域間連携に向けた取組	①地域間連携に向けた取組

基本目標 1

地域の資源を活用した魅力ある雇用を創出する

施策の方向性	具体的施策	意見内容
(1)しごと環境の創出	①新たな雇用やしごと形態の創出	企業誘致推進は重要であり、桐生武井西工業団地のような企業立地促進事業を継続すべき。
		資料4－3「次期桐生市総合計画」策定に向けた基礎的状況把握の資料のP28-29にある、繊維工業の製造品出荷額等上位40自治体の概要で、桐生市の従業員の給与が低水準であることが課題だと考えます。実際、繊維事業に従事する20代の方から聞いた話では、給与が月給20万円を下回ると聞きました。
		各事業者の経営状況によるところも大きいとは思いますが、桐生の繊維事業者に勤めたいという若者を支援するためにも、市としても後押しができないだろうか。
		例えば、若手が自己研鑽やスキルアップのための研修費を助成したり、勉強のために出かける交通費を補助するなど、本人のスキルアップやモチベーションの向上のみならず、事業者の売上向上にもつながる施策を打ち出してはどうかと考えます。
		また、繊維事業者からも新規で人を雇い入れたいが、新人を教育する時間と予算がない、1社単独で雇い入れるのが難しい、せっかく雇い入れても数年で離職されてしまうことで、企業としての体力を落としてしまう、という話を聞きます。
		地域おこし協力隊の制度を活用し、最初の3年間で雇い入れ、複数の企業での就労体験を経たのちに、任期終了後に、自分が望む企業への採用面接を受けるという対策をしてはどうかと考えます。地域おこし協力隊に詳しい方に聞くと、このように企業での就労を地域おこし協力隊の制度で支援している事例があると聞き、桐生でも活用してはどうかと考えます。
		武井西工業団地の造成と販売に力を入れているので、新里における住環境の整備にも合わせて力を入れる必要がある。基本目標3・4に新里町に進出する企業に勤める人に有利になる施策を具体的に入れるべきではないか。これからは、職住接近が、生活のゆとりにつながると思う。

(1)しごと環境の創出	②創業促進・支援	中心市街地商店街の空き店舗は観光振興上もマイナス要因であり、創業支援や空き店舗改修費用の一部補助は継続すべき。
		資料1－1で提示いただいた「起業支援金・移住支援金」も後押しとなることが期待できる。 そのため、都内において、桐生で働くことについてのイベントを開催し、待つだけでなく、人材を取りに行く施策を講じる必要があると考えます。実際に桐生にUターン、Iターンをし働かっこの先輩たちがいるので、その方たちとの接点を設け、働く、起業するイメージを持ってもらうことが重要である。 また、起業は簡単なものではない。そのため、桐生に移り住む前からの準備が必要となるので、先に述べた接点を作る施策の中では、実際に桐生での準備を支援するような取り組みも付加すると良いと考えます。
		移住だけでなく、関係人口を増やす施策も必要であると考えます。週末ワークや、二地域居住を考える方に向けた施策も必要だと考えます。桐生の立地は、自然も近く、都内からも遠すぎないという好立地を生かすことができると考えるからです。実際に私も二地域居住から、桐生に移住となりました。 コワーキングスペースを大いに活用し、関係人口を増やす施策を上記と同時に実施していきたいと考えます。
		「貸し工場バンク」など、貸工場を提供する側の体制を急いで作り、東京方面からの企業移転や地元大学からの起業のためのインキュベーション工場など、身の丈に合った規模で桐生での創業を支援する体制をつくることが重要である。
(2)地場産業等の活性化	①地場産業等の活性化	「桐生は日本の機どころ」と言いますが、実はそれだけではなくて、刺繍や縫製、染色の産地でもあります。「織物の街」も良いですが、もっと「繊維の総合産地・ファッションの街」として発信していくべき。

(3)農林業の振興と成長産業化に向けた取組	①農産物等の有効活用と担い手の確保	地元で品質の良い農産物がつくられていること、新鮮な農産物が手に入ることをPRできる体制を作り、農業に対する市民の理解を高める。まちなかに周辺農家が定期的に出る軽トラ朝市を企画するなど、農家にとっても直売による高収入を手に入れられ、市民と直接接することができる機会を設ける。環境先進都市の事業とリンクすることも可能である。
	②森林資源の活用による林業の活性化と水源の活用	労働災害発生のリスクが高い林業において、林業従事者に対する安全防護用具の支援をお願いしたい。
		市外や県外より林業就業を考える者に対し、桐生市内へ移住定住を図るため住宅支援等（空き家対策活用）を考えていただきたい。
		桐生の財産である森林の整備や、水源を守る取り組みに力を入れるべき。
		里山の資源活用ができるよう、山林地主と活用可能市民とのネットワーク組織を作り、薪ストーブ等による里山資源の利用と整備につなげる。山と人間の居住地域間に緩衝帯ができ、獣害の防止も可能となる。
その他		上流地域の環境保全活動や清流の清らかさを発信したい。

基本目標 2

人口の市外流出に歯止めをかけ、移住・定住を促進するとともに、交流人口の拡大による地域の活性化を目指す

施策の方向性	具体的施策	意見内容
(1)移住・定住の促進	①移住・定住情報の提供及び空き家等の活用	HPにアップするだけでなく、定期的に（月1回程度）見学会を開催してはどうかと考えます。先日、群馬県の事業の講演会にて長野県の(株)マイルーム様の事例を聞きました。実際に空き家を見て、妄想して、そして一緒に作り上げていく。そのプロセスを官民連携で進めてはどうかと考えています。
	②移住・定住者への支援	桐生市単独では人口減少に歯止めを掛けるのは難しいと思いますので、広域連携による人口対策を検討願いたい。
		子育て世代の増加が重要であり、駅の近隣等立地条件の良い低廉な住宅用地の供給を実施すべき。金融機関の住宅ローン特例審査も継続。
		黒保根の定住促進住宅が余っていると聞きました。こちらについて、お試し暮らし住宅及び、他拠点居住希望者への貸し出しをしてはどうでしょうか？他拠点居住については、民間事業者のベンチャーも立ち上がっています（ADDRESSという会社）。そういった会社に貸し出し、多様な方が短期間住み、地元の経済を潤すような提供の仕方をしても良いのではないかな。

(2)地域の資源 を活用した観光 振興	①地域の資源の 有効活用	ファッションの街・ものづくりの街として業界の人はもちろん、それらに興味ある人々が足を運びたいくなるような町づくりをすべきでは。
	②観光拠点整備 と効果的な情報 発信	建設中の群馬銀行桐生支店新店舗と観光情報センターをまちなか周遊のコア施設として活用し、商店街とコラボした独自イベントを実施すべき。
		数年前まで実施していた「地域づくりインターン事業」を再度実施し、①移住・定住情報の提供及び空き家等の活用「桐生暮らし体験ツアー」と合わせ実施したかどうか。
		JR桐生駅構内にわかりやすい案内版の設置、キヨスク後の有効活用
		観光で来た人に情報発信をしてもらうのが一番だと思います。なので市内主要エリアでは無料Wi-Fiの整備があると良いと考えます。リアルタイムでどんどん発信してもらえるように。
		外国人観光客受入れのための、商店向けの補助金を整備してはどうか。メニューやパンフレット、HPの作り替え、キャッシュレス決済の導入など、各店舗で独自の取り組みをしているお店には、奨励金をつくるなどはどうか。
		「i」マークを付けた案内所を主要な個所に設ける。特に、駅などの玄関口への設置は、必須である。休日に対応できる施設であることは大変重要である。
その他		J R 桐生駅構内の再活用について J R の考えを聞き、まちの活性化と鉄道利用者の増加に対して、桐生市とともに取り組むやる気を持った体制を構築できるパイプをつくる。観光協会やわたらせ渓谷鐵道も、日曜は電話が繋がらないのではまずい。
		交流人口の拡大を図る上で鉄道利用による流入者数の増加を図る工夫も検討すべき。 ※JR桐生駅前のにぎわい創出等

基本目標 3

安心して結婚・妊娠・出産・子育てができるよう、若い世代の希望をかなえる

施策の方向性	具体的施策	意見内容
(1)結婚・妊娠・出産・子育ての支援	①結婚・妊娠・出産のための支援	出産時の経済的負担を軽減してほしい。一定の線引きは必要だと思うが子どもを産むのにお金がかかるというのは、人口減少に本気で向き合うのにいかなものだろうか。 また、出産前に費用についての説明がなく、産んだ後に請求書で金額を知るというのも抵抗があるため、費用の透明性を向上するとともに、経済面でも安心して出産に臨めるようにしてほしい。
	②子育て世代の負担軽減	教育費の負担軽減として卒業後のUターン・市内居住等を条件とする給付型奨学金制度等、新たな奨学金制度を実施すべき。
		おむつへの支給などは事例があるが、食洗器補助金を設けたらどうか。1日3回の食事づくり、洗い物は、子育て中の女性にとってかなりの負担である。日本の女性はまじめで、手を抜くことが出来ず、育児に息詰まりを感じている人も多い。女性に完璧を目指さず、少し手を抜いても子どもと向き合い、自分が気の休まる時間も持っていんだよというメッセージにもなり、話題になると考えます。同時に、節水や洗剤の使用料を少なくするといった意味では、水瓶桐生市の水に対する姿勢の表れにもなる。(ヨーロッパでは紙おむつ使用NGになるなどという話も聞くと、おむつ助成よりも、食洗器助成が良いと考える) 小中学校教員の事務負担軽減と保護者の手数料負担をなくすために、給食費の公会計化を検討願いたい。
(3)特色ある教育の充実		子供の頃から繊維の町の歴史にふれられるように、授業の中に機織り体験や染物体験などを取り入れてみては。
		群馬大学理工学部が存在が当市最大の特色であり、重要度が増しているプログラミング教育の県内最先端地域として連携を強化していくべき。
		「ぐんまプログラミングアワード2019」が前橋市で開催されたが、同様イベントを桐生市内で実施するよう検討すべき。
		未来創生塾の取り組みは素晴らしいと思います。それなので、同じ子どもたちが継続して支援されているのではなく、年数を決め、たくさん子どもたちに体験をさせてあげられると良いのでは。

(3)特色ある教育の充実	①特色ある教育の充実	黒保根小学校の教育は、桐生に子育て世代を呼び込む可能性を大いに秘めていると考えています。「西町インターナショナルスクールとの交流や英会話指導の充実」という一言にとどめているのがもったいない！もっとHPを充実させ、都内での説明会を開催し、本気で人を取りに行く。また、学区を桐生市内どこからでも通えるようにし、移住者のハードルを下げる（黒保根には住める場所が少なすぎるし、何も限定する必要もない）。 小中一貫教育に地元では意味を見いだせていないと聞いたが、グローバル人材を打ち出し、保育園からの一環教育にしたらどうか。中教審の委員もしている方に聞いたところ、公立小学校での先進的な事例は少なく、長野県飯田市の大町美麻小学校の事例を聞いた。「小学校からシリコンバレーを目指す」ということを掲げているという。「西町インターナショナルスクールとの交流や英会話指導の充実」というのはあくまでも施策の一部であるので、もっと教育方針を吟味し、話題になる学校を目指せるはずだと思います。高校では隠岐島前高校の事例を皮切りに過疎地域の高校魅力化プロジェクトが広がっている。また山村留学も注目されている。自然の中で子どもを育てる事、そしてグローバル人材を育てるという高い志を掲げたら、人は集まるはずで
		中学校、高校についてはもっと根本的な特色ある教育を目指すべきだ。未来創生塾もサイエンスドクターもあくまでも外部リソースの活用にとどまっております、学校改革にはなっていないです。指導要領の改訂に合わせ、本格的なアクティブラーニング、プログラミング、英語教育に本気で力を入れるべきです。麴町中学校の校長先生の話聞いたことがありますが、公立中学校でもできることはあります。 また、先生方の業務削減に取り組むべきだと思います。先生がやらなくてもいいことは地域へ、またはパートさんを使う。そして、先生方はもっと地域へ出て、まちの人と交流し、生徒たちにもっとまちの魅力を語ってほしいです。まちのことを知らない先生が多すぎます。世田谷区の保坂区長と依然お会いした時に、「先生こそ市民たれ」とおっしゃっていたのが印象に残っています。まちのことを知らない先生に育てられた子どもたちが、まちに戻るとは思えません。そのためにも、先生の業務を減らし、精神的肉体的な負担を削減していくことが重要だと考えています。
		放課後児童クラブの質の向上が必要だと考えています。桐生の子どもたちは少ないのです。だからこそ、誰一人として欠くことなく、豊かな心と健康な体を育てる必要があります。子どもたちの放課後をもっと豊かにしていくための施策も盛り込んでほしいです。
		今後さらに進む若年人口の減少により、県立高校の整理統合が進むと思われる。そこで、群馬大学との協働により、中学からの理数教育を強化した飛び級有りの中・高・大・大学院一貫の工業系総合学校をつくり、ほかの地域の教育との差別化を図り、子育て世代を呼び集める。

基本目標 4

広域的な視点かつ将来を見据えた、地域の特徴に応じたまちづくり

施策の方向性	具体的施策	意見内容
(1)安全・安心で 住みやすい環境 づくり	②保健・医療・介 護体制やサービ スの充実	がん検診事業について、現状は40才からの「乳がん検診」を30才から実施すべきではないでしょうか。
(2)将来を見据 えた計画的なまち づくり	①環境先進都市 実現に向けた取 組	水瓶である群馬、桐生という立地であるので、もっと水に対する施策を浸透させてほしい。例えば、界面活性剤を使用した洗剤の使用を是正するような条例の策定。水が豊かであり、海なし県群馬だから、海のことまで気が回らないが、家族みんなで地球のことを考える意味でも、水条例は取り組みたい。 水について学ぶ機会もあると良いと思います。
	②計画的な地域 づくりの推進	日本を代表するファッションの街・繊維の総合産地として世界中から人々が集まるような、魅力ある街づくりができればいいのですが。
		公共施設の老朽化が進む中で、スクラップ&ビルドと維持費削減が課題になると考える。公園管理法や水道法の改正もあり、PFI事業の活動範囲も広がっているので、PFIの利用を検討していただきたい。
		使っていない施設の民間利用や売却を進める施策をお願いしたい。
		まちなかのリノベーション促進やオープンスペースの拡充を図り、商店街等の団体によるイベント事業等に対する補助を継続していくべき。
		立地適正化計画による集住地域が、大規模資本のショッピングモールを中心としたまちづくりにより地域の富を流出させる結果とならないように、地域と連携して予定の三地域の再まち立てを計画し、商店や施設の再配置を考える。

(3)地域間連携 に向けた取組	①地域間連携に 向けた取組	地域公共交通体系改善を図るため、低速電動コミュニティバス「MAYU」の停留所増加を検討すべき。
		ネット環境での連携が必要。
		周辺都市と共に桐生を中心とした周辺都市間のシャトル列車の設定と駅から先の交通の見える化に取り組む。 将来、公共交通は、若い人に便利でないと利用が進まず維持がさらに難しくなるので複数の移動の仕組みを組み合わせ、発想を転換した移動サービス網を構築し、脱自家用車をめざす。それにより、地域からの資本の流出を防ぐ。特に、みどり市との連携は重要である。相互の乗り入れや、利用用件の共通化など、公共交通相互の障壁なく利用できる環境をつくることが重要。 みどり市は、阿左美駅の玄関口化を考えているようだ。りょうもう号の停車を希望するなら、りょうもう号の桐生線内着席券の発売による線内各停化を図り、見かけの増便で桐生・太田間の利便性を向上する。
その他		施策を進めるうえで、行政の連携(横のつながり)も必要。
		「健康寿命の延伸」として、健診体制の強化が述べられているが、それだけでは、生活習慣病患者をあぶり出すに過ぎない。 一歩進めて、実際に健康寿命を伸ばすには、歩いて暮らすまちづくりを促進する必要がある。「健康」の観点から、脱自動車を呼びかけて、自動車から徒歩、自転車への利用がより優先され便利になるまちづくりを行う。自転車都市宣言・歩いて暮らせるまち宣言などを行って具体的に体を使うことが普通となる生活環境をつくる。

■その他

意見内容
シェアリングエコノミーを推進し、市民同士が助け合うことのできる基盤整備をICTを活用して促進していく必要があると考えています。
「桐生には何もない」という市民が多いので、他地域と比べて桐生の優れた点、さらに磨きをかけるべき内容を市民に見えるように示す活動を考える。大人が、まちの良さを子供に刷り込まないと、地元を愛する子供にはならない。
市民が桐生の良いところを再確認し発信できる、意識向上活動が必要